

# 大豆情報

No. 1

JAえちご中越 さんとう営農センター  
電話番号 (0258) 41-2887

令和 7年 5月 9日

大豆の品質・収量は“発芽苗立ちと初期生育の確保”が最も重要となります!!

- ① 早期ほ場内の排水、② 適切な基肥施肥、③ 丁寧な耕起による砕土率 70%確保、④ 適期播種・適正播種量により出芽・苗立ちを安定させましょう!!

## 1. 排水対策

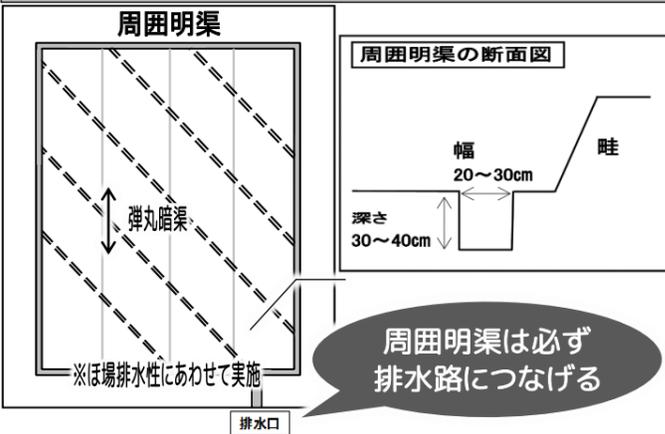
大豆は乾湿害を抑制することで大豆の養分吸収、根粒窒素固定、光合成が増大し、増収をもたらします。排水対策徹底による初期生育確保がその年の収量・品質に大きく影響します。

特に排水条件の悪いほ場では、周囲明渠と弾丸暗渠を必ず施行しましょう!!

- ① まずは「排水対策」を徹底しましょう!
- ② 大豆栽培に適したほ場条件を整えましょう!



周囲明渠と弾丸暗渠の組み合わせ(例)



周囲明渠は必ず排水路につなげる

### 【播種直後の浸冠水】

大豆は、特に出芽時期の浸冠水に弱く、種子を水に浸漬すると、短時間で出芽率が低下します。(右表) 上記の排水対策を徹底した上で、出芽率の確保に努めましょう!

浸水時間	出芽率
0 時間	95%
0.5 時間	85%
1.0 時間	47%
1.5 時間	38%
3.0 時間	19%

### 【悪い明渠の例】



## 2. 施肥

～初期生育を確保するため、基肥はしっかり施用しましょう!～

大豆は多量のカルシウムを吸収するため、石灰質肥料を施用します。(土壌 pH を確認) また、近年は、ほ場の“地力低下”から小粒化・低収量傾向が進んでおり特に品質面では出荷量の大半が「しわ粒」により格落ちしている状況です。

初期生育の確保と収量・品質向上に向けて“土づくりを基本とした地力増進”と“確実な基肥施用”(酸度矯正資材+窒素肥料)を徹底しましょう!

### ① 標準施肥量

成分名	10a成分量
窒素	1.5~2.5 kg
リン酸	6.0~8.0 kg
カリ	6.0~8.0 kg
pH	6.0~6.5

### ② 肥料使用量の目安

使用区分	資材名	10a使用量	施用時期
土づくり	ケイフン等	30~60 kg	耕起前
	酸度矯正	マグクリーン	60~80 kg
基肥	有機入り大豆配合 2号	20~40 kg	耕起前または播種時 ※いずれかを選択
	国産化成肥料 14-14-14	12~24 kg	
	ワンタッチ大豆(緩効性肥料)	40~50 kg	

- ※ 酸性ほ場 (pH: 5 以下) では、根粒の着生(窒素の蓄積)が劣るので、酸度矯正資材(マグクリーン等)を耕起前に必ず施用しましょう!
- ※ 麦あとで麦わらをすき込んだ場合には、標準施肥量では麦わら分解による窒素飢餓現象(窒素欠乏)によって大豆の初期生育に影響するため、その場合窒素成分を50%増肥しましょう!

砕土率 30%

Bad...



【ゴロゴロ土塊】

砕土率 50%

Umm...



【まだ土塊が大きすぎる】

砕土率 70%

Good!

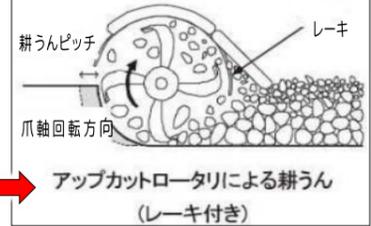


【適正です】

## 3. 耕うん・砕土・整地

◇ 出芽率と除草効果を高めるため、“砕土率は「2cm以下の土塊比率」70%以上を目標”としましょう。  
⇒ 砕土率向上には...

- ① 事前の排水対策により、ほ場を十分に乾かす
- ② 作業速度を遅くして耕うんピッチを小さくする(特に1回自)
- ③ 耕うん回数を増やすことがポイント
- ④ アップカットロータリを用いて細かい土を表層に集める



◇ 過湿・過乾燥による出芽不良を防止するため、“耕うん・播種作業は同日”に行えるよう作業計画を立てましょう☆

## 4. 播種

大豆種子: 薬剤塗抹処理の徹底により、病害虫防除と鳥害忌避に努めましょう!!

### (1) 播種準備

区分	資材名	使用液量	対象病害虫等
液状複合肥料	ルートビーズ	種子1kgあたり 原液 8ml塗沫	初期生育確保に向けたスター肥料 → → 根粒の着生が増える → 品質・収量の向上
殺虫・殺菌剤	クルーザーMAXX	種子1kgあたり 原液 8ml塗沫	紫斑病、茎疫病、苗立枯病、黒根腐病、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト、キジバト

※ ルートビーズを使用する場合は、クルーザーMAXXの塗抹前に処理しましょう。

### (2) 播種作業

① 播種時期: 5月25日~6月15日(麦あと: 6月15日頃~遅くとも6月20頃まで)  
適期播種と播種時期に合わせた栽植密度(播種量)の徹底により、発芽苗立ちを安定させ初期生育を確保しましょう! → 早すぎる播種: つるボケ(莢数減少)、遅すぎる播種: 生育小と作業遅延  
また、播種の深さは3~4cm程度を目安とし、土壌水分が高い場合は「やや浅め」に、乾燥気味の場合は「やや深め」に調整し、発芽苗立ちの向上を図ります。

### ② 播種量の目安

項目	品種・作型	「エンレイ」	「エンレイ」	「里のほほえみ」
		単作	麦あと	単作
播種時期		5/25~6/10	6/20頃	6/1~6/15
目標苗立数		10本/m <sup>2</sup>	14本/m <sup>2</sup>	13本/m <sup>2</sup>
播種量※	大粒	4.5 kg/10a	5.6 kg/10a	6.0 kg/10a
	中粒	3.4 kg/10a	4.7 kg/10a	-

「里のほほえみ」は裂皮しやすいので6月に入ってから播種します。また、粒が大きいので、大粒用の播種目皿等を使用しましょう。

- ※ 畝巾 75cm、苗立率 85%、百粒重: エンレイ大粒 34g・中粒 27g、里のほほえみ 38gとして算出
- ※ 畝立て播種では、苗立率が向上し過繁茂となる場合があるため、播種量を1割程度少なく調整し、畝の高さは10cm程度を目安として下さい。

## 5. 雑草対策

～播種後は速やかに土壌処理除草剤を散布し、雑草の発生を抑制しましょう!～

区分	薬剤名	10a使用量	希釈水量	使用時期等
播種前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~150ℓ	一年生雑草 耕起前または出芽前まで
	ザクサ液剤	300~500ml	100~150ℓ	一年生雑草 播種前まで
	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ	一年生雑草 播種前まで
播種後	クリアターン細粒剤 F	4~5 kg	-	一年生雑草 播種覆土直後
	クリアターン乳剤	500~800ml	70~100ℓ	一年生雑草 播種覆土直後
	プロールプラス乳剤	400~600ml	70~150ℓ	一年生雑草 播種後出芽前
	パワーガイザー液剤	200~300ml	100ℓ	一年生雑草 出芽直前~生育期

- ※ 播種覆土後に土壌処理除草剤を散布する場合、覆土の厚さを3cm程度とし、土壌が過湿状態でない限り使用基準の範囲内で希釈水量を多くし、十分な量を散布して下さい。← 散布水量が少ないと効果が劣ります。
- ※ 除草剤使用の際は、周辺作物への飛散・ドリフトに十分注意して下さい。

~~ 営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ ~~